令和８年度　花巻市非核平和推進事業　「非核平和学習会」

「非核平和学習会に参加して」

～私たちが学習会で学んだことや感じたことなどをお伝えします～

非核平和学習会に参加して思ったこと

東和小学校　６年　新田（にった）　さつき さん

広島平和記念資料館で沢山の写真や実物を見ました。全身をやけどした小さな女の子の写真。これを見たときに私は、「この子は戦争に関係のないのになんでこんなことになっているの。この子には戦争さえなければきっと幸せな人生を歩めていたはずなのに。」と思いました。もちろん原爆で亡くなった人はもっともっといます。原爆を生き残っても次にせまるのは後遺症です。やけど、失明などです。なんでこんなことになるの？人が作った核兵器で何十万、何百万の人が苦しまないといけないの？絶対におかしい。

今こうやって私達が生活している時もこの世界のどこかで戦争が起こっています。私はそれが許せないです。私は戦争のない世界がいいです。だから今私達ができる事を率先して行いたいと思います。

他にも資料館で色々な写真や実物を見ました。丸こげの三輪車、丸こげのお弁当。原爆で亡くなった当時の人が着ていた服。幼くして親を亡くした３～４才ぐらいの子達がお祈りしている様子。皮ふが垂れ下がる人々、周りが炎に包まれている中、必死に逃げようとしている人々の絵。私は写真や絵を見ている最中、「あなたはこれを知らないまま生きてきたの？」と耳もとでささやかれた気がしました。資料館には外国人の方も沢山いました。この経験を日本人だけじゃなくて世界の人、一人でも多くの人に伝わってほしいです。そのために私も友達や家族にこのことを話しました。これからの時代、戦争を経験した人は数少なくなっていきます。なので本当に一人でも多くの人にこのことを知ってほしいと思います。

戦争はこの世に必要ないのです。

本当によくない事です。

たった一発の原爆で

宮野目小学校　５年　阿部（あべ）　隼士（はやと） さん

ぼくは８月５日から６日までの２日間、広島県に行ってきました。自分が広島県に行って知れた事や、成長できた事がたくさんありました。その中でも自分が一番印象に残ったことは、原爆ドームでガイドさんから聞いたお話です。原爆が投下されたのは、原爆ドームから約４．２キロメートル離れた場所に投下され、その時の温度は３，０００から４，０００度にまでのぼったそうです。その後の放射線の影響により黒い雨がふり、それを浴びてしまった人達は体中が黒くなったり病気にかかってしまい、生きていても辛い思いをする人達がいることを知りました。実際にその写真を見て、ぼくは目をそむけたくなりました。なぜなら、その悲惨な状況のほかに原子爆弾で親を亡くしてしまった子供達や、皮ふが熱で溶けてたれ下がり亡くなってしまった方や、原子爆弾の影響で高温になった川に飛びこみ亡くなった人達がたくさん写っていたからです。

この残酷なことが二度と起こらないようにするために、ぼくは広島県で学んだことを家族や学校の友達をはじめ、いろんな人達に教えて、あのとき広島では何が起こっていたのかを伝えていきたいと思います。そして現代になってもまだ止まない戦争を無くすために自分達ができることを積極的に進めていきたいと思いました。

自分が大人になったら全世界が武器や核兵器を無くし平和になってどの国とも仲良く交流できるような世界になっていてほしいです。そのためには、自分たちの国のことだけでなく、他の国の意見などを聞き分かり合えれば、これから先の未来は戦争というものは、無くなると思います。このことは日常でも同じで、自分の意見だけを言うのではなくて他の人の意見を聞くことで自分の考えもより深く良い方向に行くと自分は、考えています。

最後に引率してくれた方々や一緒に学習した５、６年生と貴重な体験ができて、良かったです。２日間ありがとうございました。

大切な命

宮野目小学校　５年　小田島（おだしま）　千結（ちゆ） さん

私は戦争を経験していないため、戦争がどういうものだったのか、知る機会はほとんどありません。そのため、非核平和学習会に参加し、広島で起きたことを見てみたいと思い参加しました。

まず、原爆ドームを見ました。目の前に現れた原爆ドームはボロボロすぎて驚いてしまいました。原爆が落とされる前と落とされた後のちがいは想像以上であり、一瞬にしてすべてを破壊してしまう原子爆弾の恐ろしさを感じました。

一番印象に残っているのは資料館です。当時の写真や服、絵などがありました。写真から、ここから逃げたいのに苦しくて逃げられない、死にたくない「生きたい」という強い思いが伝わってきました。

平和記念式典にも参加しました。黙祷をする中で、今まで見てきたことが思い出されました。同世代の「平和への誓い」では、戦争の恐ろしさを忘れず、周りの人を大切にしようと思いました。

今回、非核平和学習会に参加し、戦争は絶対に繰り返してはいけないと強く感じました。たった一つの原子爆弾で何万人もの人が亡くなってしまいます。今、生活している毎日がどれほど幸せで特別なのかを深く実感しました。戦争を繰り返さないためにも、この場所で学んだことを伝えていきたいです。そして、私ができることは、身近な家族や友達を大切にし、お互いを思いやることです。一人ひとりの思いが広がって、戦争のない世界へとなっていければいいなと思います。

広島に行って学んだこと

八重畑小学校　５年　中村（なかむら）　望乃叶（ののか）　さん

私は８月５日、６日に非核平和学習会に参加し、広島へ行きました。

私が学習会に参加したきっかけは、戦争や原爆のことを本やテレビでしか見たことがなかったので、実際に広島へ行き、その恐ろしさを感じて、学びたいと思ったからです。私が印象に残っているのは、３つあります。

１つ目は、原爆ドームです。実際に見ると圧倒される存在感でした。今にも崩れそうな外壁とはだかの鉄骨がここで起きた悲惨な状況を物語っていました。

２つ目は、原爆資料館です。何が入っていたのか分からないくらい真っ黒なお弁当やボロボロの服、丸こげになった三輪車を見て、そこにあった日常が一瞬で変わってしまったんだとすごく胸が苦しくなりました。

３つ目は、平和記念式典です。世界中から多くの人が集まり、平和を願う人がたくさんいると思いました。

私と同じくらいのこども代表の人たちが、「平和とは誰かに与えられるものではなく世界中の人々で創り上げるものです」と言っていました。一人一人が行動していくことが大切なのだと平和についてすごく考えさせられました。

私たちは今、やりたいことができて平和に暮らすことが出来ていますが、世界では戦争をしている国があります。まだ生きたい、やりたいことがあるのに亡くなっている人たちがいるということがとても悲しいです。

世界が思いやりの気持ちを持つこと、相手を尊敬すること、同じ人間であることを大切に生きていけたらいいなと思いました。

学習会に参加して学んだことを忘れず、これからも生活していきたいと思います。

戦争と未来への希望

花巻小学校　６年　藪亀（やぶき）　武瑠（たける） さん

ある日の事、テレビニュースを見ていると、中東で戦争が起きていて、ミサイルなどが落とされている映像が流れていました。町は破壊され、その出来事におびえる人々を見てぼくは言葉を失いました。この出来事をきっかけに家族と話をした時、自分のご先祖様がかつて兵隊として戦地へ行ったことがあるという事を知りました。それまで教科書や本の中の話だった戦争が、自分との血のつながりや、過去の日本とのつながりがあるという事を実感し非核平和学習会に参加したいと思いました。

学習会１日目は、原爆ドームと記念資料館を見学して来ました。はじめて実際に見た原爆ドームは言葉では言い表せないこわさがありました。また、資料館の展示を見て一瞬にして多くの人の命を奪ってしまう原子爆弾は本当に残酷だと恐怖を感じました。生き残ったとしても大切な家族や友達を失った悲しみは、本当に辛かっただろうと思います。その夜、ぼくは、資料館などで見て来た悲惨な光景や苦しむ人々の思いが頭から離れず、なかなか眠りにつく事ができませんでした。

２日目ぼくは、平和記念式典に参列させてもらいました。そこには、日本国内の人々だけではなく世界各国から多くの人々が集まっていました。子供から大人まで、国や言葉の壁を越えて、いろいろな人々が祈りを捧げていて、核や戦争が無くなる事を祈る気持ちはみんな同じなんだなと思いました。

今、ぼく達が毎日の様に学校で学び、友達と笑い合い、家族と過ごせる日々は決して当り前ではなくとても幸せな事だと改めて感じました。広島で学んだ戦争や核の恐ろしさをぼくは決して忘れません。これからは自分がこの貴重な経験から学んだ事を伝えていきたいと思います。また、今あるこの日々に感謝を忘れず、平和のために自分に何ができるのかを考えながら生きていきたいと思います。

非核平和学習会に参加して

若葉小学校　６年　瀬川（せがわ）　煌太（こうた）　さん

ぼくは、広島平和記念公園を訪れました。広島については、学校の授業で原子爆弾（原爆）が落とされ、多くの人が亡くなったことを学んでいました。でも、実際に広島を訪れてみると、教科書や写真などで見るのとは違う恐ろしい気持ちになりました。

平和記念公園に着いて、最初に見たのは原爆ドームです。原爆ドームは、原子爆弾が落とされた場所の近くにあり、建物の一部が今も残っています。ぼくは、原爆ドームを見たとき、「ここで原爆が落とされ多くの人が亡くなったんだ。」と思いました。建物は古く、壊れた部分もたくさんありました。その姿を見ていると、当時の広島でどれほど大きな被害があったのかを想像して、とても胸が苦しくなりました。

平和記念資料館にも行きました。そこには、原爆によって被害を受けた人達の写真や、当時使われていた物などが展示されていました。特に心に残ったのは、原爆によって被害を受けた人達の様子や、家を失い家族を失った人の話です。また、今まで戦争という言葉を聞いても、今のように深く考えずに戦争はたくさんの人が亡くなったものと考えていましたが、広島に行って考え方が変わり深く考えるようになりました。戦争は一人一人の生活や命を奪うものなのだと強く感じました。

また、原爆の子の像も見ました。像の周りには、たくさんの折り鶴が飾られていました。折り鶴には、平和への願いや、亡くなった人達への想いが込められているそうです。たくさんの人が平和を願っていることが分かり、ぼくも「二度と戦争を起こしてはいけない」と思いました。

今回、広島を訪れて、平和は当たり前にあるものではないのだと感じました。家族と一緒に笑いあったりご飯を食べたり、学校で友達と笑い合って話し合ったりすることはかけがえのない宝物です。普段は当たり前だと思っている毎日も、戦争の中では当たり前ではなくなってしまいます。

ぼくは、今回見たり聞いたりしたことを忘れないようにしたいです。そして、戦争を経験していないぼくたちの世代が、広島で起きたことを学び、次の世代に伝えていくことが大切だと思います。

広島平和記念公園を訪れたことで、命の大切さと平和のありがたさを改めて考えることができました。これからも、友達や家族を大切にし、日頃から自分ができることを考えて行動したいです。そして日本以外の国でも笑顔で人々が暮らせるような世界になってほしいです。

非核平和学習会に参加して

桜台小学校　６年　及川（おいかわ）　ふゆ さん

私は２０２６年８月５日と６日に非核平和学習会に参加しました。

まず、最初にガイドさんに話を聞きながら原爆ドームのまわりを歩きました。ガイドさんによると、原爆ドームの上空の真上で原子爆弾が落とされ、爆発しました。この近くにある橋がDの形をしており、これを目標に爆弾を落としたと言われています。この原子爆弾により、およそ１４万人の人々が亡くなったといわれています。原爆ドームのドーム部分は最初はらせん階段だったのが、真上で爆発し、ドームの骨組みだけが残り、今の状態になったのです。もともとの原爆ドームは美術館・博物館でした。

次に、平和記念資料館へ行きました。展示されていた、被爆した人々が当時着ていた服にはたくさんの穴が開いていて、ボロボロになっていました。中には保育園の制服もあり、心がしめつけられる気持ちになりました。当時の被爆者が書いた絵の中には、髪が燃え、皮ふがただれて手を前につき出しゾンビのようになった人の絵や、全身に大やけどを負ったり大ケガをした赤ちゃんを抱いて逃げる人を書いた絵もありました。

原子爆弾が落とされた８１年前は焼け野原になり、７５年は草も木も生えないといわれていたそうです。ですが、この予想は外れました。私は、この予想が外れ、今の魅力あふれる広島になったことをとてもうれしく思います。

私はここで、原爆症というこわい病気があることを知りました。この病気は、被爆したときは何もなかったのに、何十年もたってからたくさんの病気になってしまう病気です。私はこの病気を知って、あらためて原爆の恐ろしさを実感しました。

６日には、広島の記念式典に出席しました。８時から始まり、８時１５分には黙祷をしました。その後には、ハトがはなたれました。次に、高市総理のスピーチを聞きました。そのスピーチを聞いていると、こんな思いを他の誰にもさせてはならないと言っていました。私も、本当にそのとおりだなと思いました。しかし、世界では今もなお戦争が続いているということを知り、とても悲しい気持ちになりました。

私は核を脅しに使った軍事侵攻や、国際法をないがしろにする横暴なふるまいは、決していいことではないと思います。私はこの式典に出席し、少しでもまわりの人に広島に行ってきて学んだことを伝えられるように努力したいと思います。

大切なものを守るために

花巻市立桜台小学校　５年　川村（かわむら）　絆菜（はんな） さん

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるでしょうか。

私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。

それは、昭和２０年（１９４５年）８月６日、午前８時４５分に一つの原子爆弾が、たくさんの尊い命をうばいました。そのとき、人々はあたりまえの日常がうばわれたのです。

私は、非核平和学習会に参加して心に残ったことは、３つあります。

１つ目は、原爆ドームについてです。なぜかというとすごく立派で、丈夫な建物だったのに原爆で一瞬にして崩れた恐ろしさがよく伝わってくるからです。

２つ目は、平和記念公園についてです。なぜかというとこの公園は、原爆が落とされる前は、たくさんのお店や家が並ぶにぎやかな町でした。しかし、原爆で町は一瞬にして消えてしまいました。戦後に「平和を世界に伝える街にしよう」という広島の人々の思いがあり、公園に草花などが植えられていて、亡くなった人々への思いがこめられていると感じたからです。

３つ目は、広島平和記念資料館についてです。なぜかというと展示されている制服や黒こげになったお弁当などを見てすごく恐ろしさを感じたからです。

私は、広島から平和について考えました。私にとって平和は、普段の生活を家族と笑顔で過ごすことだと思います。その平和な日常を守るために私たちができることは、相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めることです。そして、自分と相手の命を大切にすることだと思います。

一人一人が平和について考え、小さなことでも、少しずつ行動していくことで平和に近づいていくと思います。大切なものを守るために私が今できることをがんばりたいです。

８１年前の広島から、今のぼくへ

桜台小学校　６年　千葉（ちば）　陽斗（はると） さん

今から８１年前の１９４５年８月６日午前８時１５分、広島に一発の原子爆弾が落とされました。その日の朝も、子どもたちは学校へ行き、大人たちは仕事へ向かうなど、戦争で食べ物も少なく、たいへんな暮らしの中でもがんばって生活していたのだと思います。しかし、たった一発の原子爆弾によって、その当たり前の生活が奪われ、多くの人の命が失われました。原子爆弾は恐ろしい核兵器です。ぼくは、なぜそのようなものが作られ、広島に使われてしまったのか疑問に思っていて、それを知るために学習会に参加しました。

広島平和記念資料館では、原爆で亡くなった人たちの遺品や写真を見ました。焼けた服や持ち物、原爆が落とされた後の写真などを見て、これが現実に起こったことなのか信じられない気持ちになりました。初めて行った広島はとても大きな町で、そこからは想像ができないほど悲惨な光景でした。

さらに調べていくと、アメリカでは作ったばかりの原子爆弾の力を調べたかったこと、当時の広島には軍の施設があったために爆弾が落とされたことがわかりました。そんな実験のような理由で多くの人達の命が失われたと思うと怒りがわいてきました。また、戦うこともできない多くの人を犠牲にするしかなかったのだろうかと心が痛みました。

そして、「平和とは何だろう」ということも考えてみました。ぼくが当たり前だと思っている家族と一緒にご飯を食べること、学校へ行くこと、友達と遊ぶことなど、いつもの生活ができることが平和であり、幸せなのだと気づきました。

そんな幸せを壊してしまう核兵器がある限りこの世界は平和にならないと思います。ぼくは、広島で見て、聞いて、感じたことを忘れず、多くの人に核兵器の恐ろしさを伝えていきたいです。